

ハンドルの重みは命の重み

交通事故・飲酒運転ゼロ目指して

社会全体で見守る取り組み



ふなこし・りゅうじ 1959年生まれ。82年沖縄テレビ放送入社。報道制作局長、取締役、常務取締役を経て2021年より同社社長。22年6月に公益財団法人沖縄県交通遺児育英会理事に就任し、23年7月に同会理事長に就任。

公益財団法人 沖縄県交通遺児育英会
おきなわけんこうつういじくせいいかい 1971年、任意団体として「沖縄交通遺児を励ます会」が発足し79年に「財団法人沖縄県交通遺児育英会」へ移行。翌年から給付事業を始め2023年度までに延べ7253人に4億7876万3500円を給付。交通事故で保護者が死亡または後遺障害を負った家庭の県内小学校～大学に通う子どもたちが対象で、交通事故被害側・加害側問わず、学業支援、健全育成支援を目的に返済不要の奨学金・育成金を毎年度給付。県民から寄せられる浄財や基本財産の運用益、県の補助金などで運営。2011年に公益財団法人へ移行。

発足から54年を迎えた「交通遺児育英会（東京・石橋健一会長）」。「交通事故により保護者が亡くなったり、重度の後遺障が残り、経済的に修学が困難な子どもたちに寄り添い、奨学金の貸与や給付事業を柱に、学生寮の運営や海外語学研修などのさまざまな支援を行っています。県内では日本復帰前に有志で発足し、活動開始から52年となる「沖縄県交通遺児育英会（那覇市・船越龍二理事長）」が子どもたちの健やかな成長を見守っています。両会のトップに、活動に込めた思いや交通事故ゼロに向けた取り組みなどを聞きました。

（企画・制作 琉球新報社統合広告事業局）

公益財団法人 沖縄県交通遺児育英会
船越 龍二 理事長

対談

公益財団法人 交通遺児育英会
石橋 健一 会長

進学・修学・就職 夢をかなえたい
船越氏 私たちは沖縄県内の学校を借り上げる方式で学生寮を開設、現在、高校奨学金が進学を希望した場合は受験費用の補助があります。交通遺児が首都圏の大学・短大へ安心して進学できるようにとの願いから、設立9年目から東京で直営の学生寮「心塾」の運営を行い、2005年から関西でも民間の学生寮を借り上げる方式で学生寮を開設、現

修学が困難な子のため 支援団体を発足
石橋氏 交通遺児育英会会長 交通遺児育英会は、交通事故被害に巻き込まれた家族の思いが結実して結成されました。1960（昭和40）年代の高度成長期、毎年1方6千人を超える方が交通事故で亡くなりました。残された家族の「子どもをせめて高校にだけは進学させたい」との願いが全面的な広がりを示しました。その声を受け、1968年度末に国会で修学支援の組織作りが閣議決定され、その約半年後の1969年5月に「交通遺児育英会」が設立されました。



いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大学工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、1996年交通遺児育英会に出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月より現職。

公益財団法人 交通遺児育英会
こうつういじくせいいかい 1969（昭和44）年設立。50年以上にわたり、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障が残り、経済的に修学が困難になった子どもたちに奨学金を無利子で貸与（一部給付）して、高校や大学への進学を支援し、社会有用の人材を育成することを目的に活動している民間の団体。事業は①奨学金の無利子貸与（一部給付）②奨学生の指導および育成と交流③学生寮「心塾」の運営④修学支援金の給付⑤交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等の大きく五つで成り立っている。

多様な支援通し成長を応援

役奨学生に対して自宅外通学者への家賃補助も2015年下期から始めました。また、4年ぶりに海外語学研修も実施できました。費用は当会が全て負担して、英会話能力の向上と異文化体験を目的に、夏休みの3週間、アメリカで20人がホームステイしながら語学教室に通うのです。精神的な成長の場として奨学金と保護者から高い評価をいただいています。社会人になる自動車運転免許を取得することが大きな力になります。普通自動車第一種運転免許と準中型自動車第一種運転免許取得費用として上限15万円を補助しており、年間100人超の方が申請してしま



対談で子どもたちの健やかな成長を願う思いを語った石橋健一交通遺児育英会会長（右）と船越龍二沖縄県交通遺児育英会理事長＝那覇市の琉球新報社

夢へ挑戦、支援のおかげ
私は、小学生の時に父を交通事故で失いました。一番上のきょうだいが高校生。一番下も同じ小学生でした。家族全員が悲しみの中で、これからは自分たちで生きていかなければならないと不安がありました。そんな時、母がきょうだいを集めて「全部進学も、やりたいま

まな支援につながりました。このときから、周囲で見守ってくれている人の存在にいつも感謝しています。夢や挑戦したいことの選択が広がったことも、支援のおかげだと思っています。将来は島へ帰って、困っている人を助け、島を活性化できる仕事に就きたいと思っています。

社会ニーズ反映 新たな方策模索
石橋氏 去年広報課を新設しました。一つは支援組織の存在を知らせてほしい。さらには個人や団体、企業の方々に支援者になっていただく窓口の存在を知ってもらうためです。潜在的な「あしながおじさん」といいますか、多くの方のお気持ちの受け皿になればと思っています。

交通安全願い 全国大会開催
石橋氏 交通事故ゼロに向けて、奨学生や保護者に体験を語っていただく「無料出張講演」があります。企業や公的機関の他、若い方への啓発として高校でも実施しました。被害者にも加害者にもならないための安全意識を高める啓蒙になればと考えています。今年度は20回を目標としており、要請があれば地域を問わず訪問しています。

交通安全願い 全国大会開催
石橋氏 交通事故ゼロに向けて、奨学生や保護者に体験を語っていただく「無料出張講演」があります。企業や公的機関の他、若い方への啓発として高校でも実施しました。被害者にも加害者にもならないための安全意識を高める啓蒙になればと考えています。今年度は20回を目標としており、要請があれば地域を問わず訪問しています。

交通安全願い 全国大会開催
石橋氏 交通事故ゼロに向けて、奨学生や保護者に体験を語っていただく「無料出張講演」があります。企業や公的機関の他、若い方への啓発として高校でも実施しました。被害者にも加害者にもならないための安全意識を高める啓蒙になればと考えています。今年度は20回を目標としており、要請があれば地域を問わず訪問しています。

各団体の支援事業・育英事業 ●公益財団法人 交通遺児育英会 ●公益財団法人 沖縄県交通遺児育英会

あしながおじさん 進学したよ 出会えてよかった 交通遺児育英会

交通遺児育英会は1969（昭和44）年に設立されました。50年以上にわたり、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障が残り、経済的に修学が困難になった子どもたちに奨学金を無利子で貸与（一部給付）して、高校や大学への進学を支援し、社会有用の人材を育成することを目的に活動している民間の団体です。

大きく5つの事業から成り立っています

- 1 奨学金の無利子貸与（一部給付）
- 2 奨学金の指導および育成と交流
- 3 学生寮「心塾（こころじゅく）」の運営
- 4 修学支援金の給付
- 5 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

その他、広報紙「君とつばさ」を年5回発行しています。